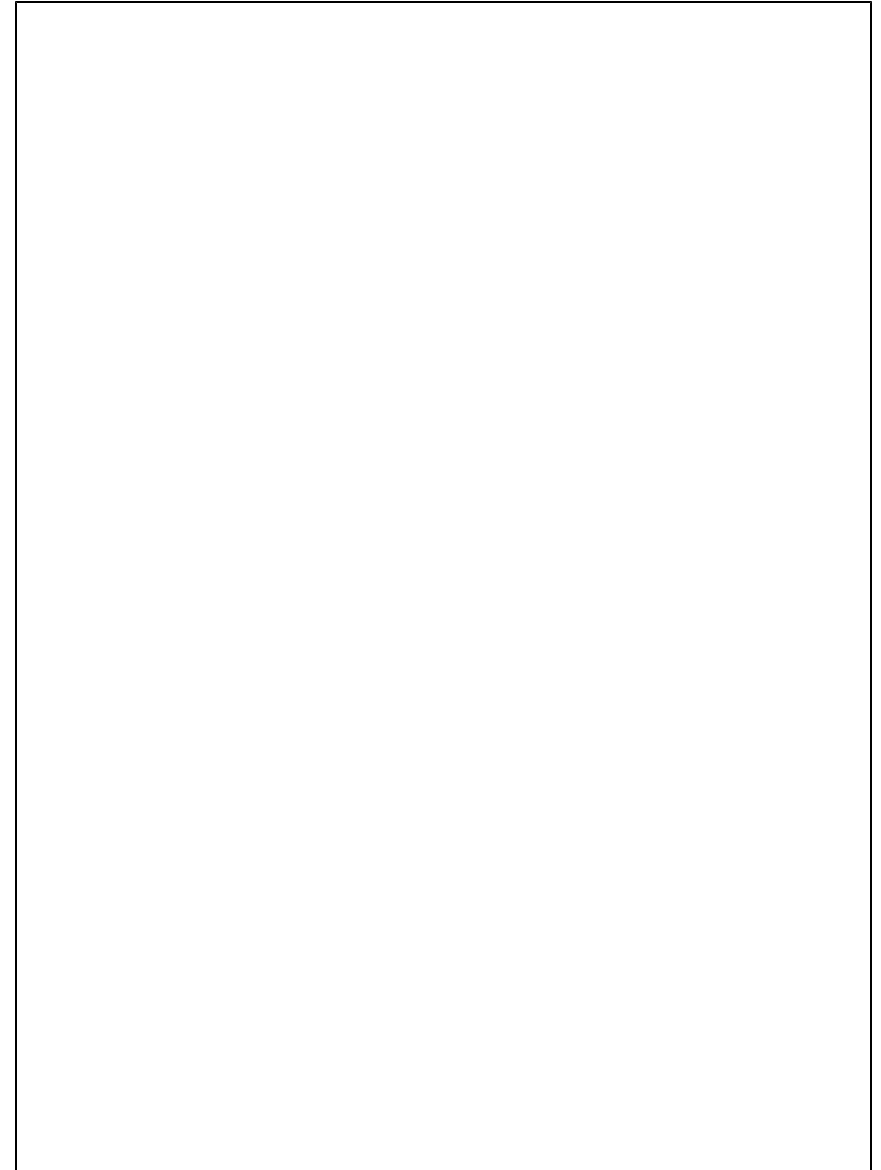


## 町あるき文化財一覧表

番号	学年	名 称
①	1年	竹の熊の大ケヤキ
②	1年	押戸石々群
③	2年	金比羅スギ
④	2年	湯田天神の櫃
⑤	3年	志津川のオキチモズク
⑥	3年	中原楽
⑦	4年	市原祇園社獅子舞
⑧	4年	吉原の岩戸神楽・吉原大神宮神木
⑨	5年	千光寺の板碑・十一面観世音菩薩
⑩	5年	志賀瀬六地藏
⑪	5年	木造地藏菩薩立像・附金剛力士像・六地藏
⑫	6年	満願寺 霊場
⑬	6年	満願寺の宝塔
⑭	6年	満願寺庭園
⑮	中1	地藏原遺跡





【町指定無形民俗文化財】

6

なか ぼる がく  
中原 楽



毎年9月の熊野座神社の祭礼、小国両神社秋季大祭の神輿行列のお供をして先導を務める。

住所：南小国町大字中原

地  
図

伝承経路は不明であるが、京都の系統で山鹿方面より伝えられたと言われる。

歴史も古く、現在では、瓜上、上中原両地区の人々により伝承されている。

道楽、端楽、神楽、座楽、弔楽があり、楽の構成は、楽長、笛、大太鼓、鉦、薙刀、瓢箪つき、群子（ムラシ）となっている。

9月18日に熊野座神社で、10月16日に小国両神社で奉納される。

月	日	曜日	天気( )
-----			
-----			
-----			
-----			
-----			
-----			
-----			
-----			
-----			

**【県指定重要文化財】**

11

もくぞうじ ぞうぼ さつりゅうぞう

**木造地蔵菩薩立像**

つき こんごうりき し ろくじ ぞう

**附金剛力士・六地蔵**



[木造地蔵菩薩立像]  
台座共に286.5  
cmの巨像

[金剛力士像]  
門に在った二軀を地  
蔵堂に移したもの

地  
図

住所：南小国町大字満願寺 地蔵堂

地蔵菩薩は、桧の寄木造りで、高さ269.5 cm、台座共に286.5 cmの巨像で、南北朝時代の作と見られる。

流麗（スラスラとして美しい様）な彫りと温容（おだやかな顔つき）が、すぐれている。

金剛力士二軀は、元龜2年（1571年）仁王門建立の時の仁王像で、元来、門に在ったものを地蔵堂に移したものである。室町時代初期のすぐれた作であるが、二軀ともに傷みがひどくなっている。

六地蔵は、現在五軀が残っており、いずれも桧の一本造りで、南北朝時代の作と言われている。容姿も穏やかなつくりである。

月 日 曜日 天気( )

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

12

## 【満願寺八十八ヶ所 名所】

まん がん じ れいじょう

### 満願寺 霊場



#### 【満願寺】

元寇の際、北条時定が国家安泰を願って建てられたお寺。満願寺には、史跡・文化財も多く残されている。



#### 【鬼のつぎ石】

久住の鬼たちが、満願寺志津の里に遊びに来て、石積みをしたと伝えられている。志津集落の上手、川向こうにそびえ立つ大積石に人々は目を引かれている。

住所：南小国町大字満願寺 志津

地  
図

満願寺霊場は、江戸時代の初期にまつられており、300年以上にわたって多くの人たちに尊ばれ、祈りがささげられてきた。

#### 満願寺八十八ヶ所巡りの一部から

- 北条三氏の墓（北条時定・定宗・随時）
- 金比羅スギ
- 満山神社の杉群
- 腰掛岩
- 地藏堂

#### 【鬼のつぎ石の民話】

昔、久住の鬼たちが、一夜、この志津の里に遊びにきて、石積みをはじめた。3つ重ね終わって4つ目を重ねようとしたところ、里の方から「ニワトリの鳴き声」がきこえ、夜が明けかかったので、4つ目の石は、付近に投げ捨てて逃げかえったと伝えられている。

月 日 曜日 天気( )

月	日	曜日	天気( )